

科目名	舞台ゼミ4							年度	2025
英語科目名								学期	
学科・学年	演劇スタッフ科 2 年次	必／選	必	時間数	120	単位数	4	種別※	演習
担当教員	山本浩二・増田有示・宮下明日香・山田岳史		教員の実務経験		有	実務経験の職種		舞台スタッフ	
【科目の目的】									
学生が、より業界での仕事を念頭においた実習内容となり自身の意識も進路に向けたものとしスタッフワークを身に付ける。実習にのぞむ姿勢も、社会にでて協働するということを念頭におきルールやマナーもスタッフワークの一環であるという認識をもつ。実習課題は記録し、それが就職活動において資料や自己PRになるので、完成度や精度を意識したものを制作していく。企業研究も並行し目指す分野や企業のニーズに沿ったものの実習内容とする									
【科目の概要】									
業界へと進み、身に着けておかなければいけないスタッフワークを実習する。1年次に学んだことが落とし込まれているかの確認をしながら、よりブラッシュアップされた内容を学ぶ。各セッションにて内容はことなる。続けて行うスタッフワークショップ（実習）では行わない、一つのテーマを掘り下げて身に着けていく内容となる。									
【到達目標】									
前期での実習成果が学生の就職活動において大きな比重を占めるので、積極的に行い、高い意識をもつ。実習課題や製作物、レポートといったものは、各学生が記録し保管する。そうすることにより慌てることのない就職活動にもつながり、継続することを目標とし各々のスタッフワークの修練度を確認する。実習日を利用してインターンシップ活動も行えるので、社会に出て、仕込みからリハーサル、本番公演を行うことにより実践力を身に付ける。卒業公演に向け技術や知識の向上を目指す。									
【授業の注意点】									
前期で行う実習成果が就職活動やインターンシップに大きく影響してくることを意識する。 希望する企業を明確にし実習を通して傾向と対策を立てられるとよい。 作業しやすい服装・実習ジャンパー着用。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1				
	優れている	よい	ふつう	あと少し	要努力				
到達目標 A	興味を持ち、集中して参加できる		ひと通り聞くことは出来る		理解できない				
到達目標 B	レベルが一つ上のレポートを書くことが出来る		授業のレポートを書くことが出来る		文章に出来ない				
到達目標 C	自身の専攻以外の情報を咀嚼し、そこに還元すべく深く理解する		自身の専攻以外の情報を聞くことができる		理解できない				
到達目標 D	様々な資格を将来に生かすべく取得できる		将来の自分にとってどのようなメリットを生むか、聞けばわかる		想像ができない				
到達目標 E	実施した経験、知識・情報を繋げて実用的な理解が出来る		情報や経験をリンクできない		反芻できない				
【教科書】									

【参考資料】

必要時、資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。教材、機材は教室内のものを使用する。

【成績の評価方法・評価基準】

出席率。各セクションにて実習した内容を落とし込んでいるか。課題を総合的に評価する

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名		舞台ゼミ4			年度	2025	
英語表記					学期		
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容		到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	業界に沿ったスタッフワークの研究	希望進路に沿ったスタッフワークを身に着ける		調べ			
				課題に取り組む			
2	業界に沿ったスタッフワークの研究						
3	業界に沿ったスタッフワークの研究						
4	業界に沿ったスタッフワークの研究						
5	研究成果発表	各々のスタッフワーク向上の確認		発表			
				講評			
6	文化祭イベントにおける準備、スタッフワーク実践	実践力の向上、確認		スタッフワーク実践			
7	文化祭イベントにおける準備、スタッフワーク実践						
8	業界に沿ったスタッフワークの研究						
9	業界に沿ったスタッフワークの研究						
10	業界に沿ったスタッフワークの研究						
11	演出論での本番に向けての準備			調べ			
				スタッフワーク実践			
12	演出論での本番に向けての準備						

[illegible]